

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年9月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102191
法人名	医療法人 萩風会
事業所名	グループホーム 花蓮
所在地	鹿児島県鹿児島市西谷山三丁目1番10号 (電話) 099-203-0567
自己評価作成日	令和3年9月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URI	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い道路に面し歩道も広く、近くにはJRの駅や学校・商業施設もあり活気のある場所で、買い物などの利便性も良い
ホームは3階建ての2階にあり、1階はメンタルクリニック併設し、適宜専門的な相談も行える
母体は整形外科で徒歩2分程度のところにあり、変化時などは随時対応できるため安心できる
職員は看護師が多く、日常の健康管理を含め変化時の対応を迅速に行えるよう、主治医との連携や、ご家族へも日ごろの状態を知って頂ける様、適宜ご連絡を行い、入居者・ご家族が安心でき、笑顔のある健やかな暮らしが続けられるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は法人母体が医療機関で道路の向かい側に位置し、隣接して関連施設の有料老人ホームがある。
- ・当事業所は3階建ての2階に有り、1階がメンタルクリニックで3階が通所リハビリテーションである。コロナ感染拡大により外出自粛のため、日、祝日には同施設を利用し、運動機器で体を動かすなどのレクリエーションを行っている。
- ・24時間医療連携体制で適切な医療が受けられるよう支援している。職員に看護職員が多く、看取り支援の事例がある。
- ・法人代表や管理者は職員の意見や要望を聞く環境づくりを心がけて、働きやすい職場環境を目指している。
- ・職員は家族的な雰囲気の中で利用者の思いや気持ちに寄り添った対応に努め、家族の悩みや相談なども気軽に話せる関係性を築いている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念「一、家庭的な雰囲気」「二、地域とのふれあいを大切に」「三、一人ひとりの個性を尊重」を下に、事業所目標を立て、毎月のミーティングなどで共有	法人理念を基本に職員全員で考えた事業所目標を共有し実践に繋げている。理念は玄関に掲示している。毎月のミーティングや毎年12月に評価し、法人理念や事業所目標の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催行事も少なくなり交流は少ない	町内会に加入し回覧板や町内会役員から地域情報を得ている。地域清掃活動や開催行事はコロナ感染防止の為自粛している。散歩時の近隣住民との挨拶や花見の声掛け等の交流がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	新型コロナウイルスの影響もあり、活動的なことは困難となっているが、定期的に町内会長や地区の民生委員と連絡を取り、相談の際は対応できるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大により、運営推進会議は書面での報告としている、適宜電話を行い要望やご意見などを聞き取れるようにしている	コロナ感染防止の為、運営推進会議は書面で入居者の状況や事業所の活動報告・事故・ヒヤリハット等を郵送やポストインで報告している。2ヵ月に1回、電話で要望や意見等を聞くようにして対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議などの報告を定期的に長寿あんしん相談センターへ行き、福祉事務所の生活保護ケースワーカーの方とも連絡を取っている	市担当者とは直接出向き介護保険の申請や電話での相談、生活保護担当者とは情報共有する等、日頃から連携し協力関係にある。行政からの研修はズームで参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティング・2か月に1回の委員会開催、事業所内でも定期的な研修で、身体拘束の弊害などを学び、身体拘束をしない介護に努めている	毎月のミーティングや2か月に1回の身体拘束廃止委員会で身体拘束や言葉の拘束について事例や資料を用いて研修している。日頃から言葉遣いをチェック項目で振り返り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関施錠はせず見守り支援し、帰宅願望がある場合は話をゆっくり聞き、一緒に散歩に出かける等の支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修や定期的な委員会を開催し、理解を深められるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内で周知できるよう研修を開催している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際や制度改正時なども、重要説明事項及び契約書の内容について丁寧に説明、不明点などは確認し、それぞれ2部作製、同意の署名・捺印をいただき、1部を交付している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、事業所への立ち入りは制限しているところですが、定期的や必要時にご家族へ連絡を行うなど、入居者・ご家族との、良好な関係構築に努め、ご意見をいただけるようにしている</p>	<p>家族との面会は入り口のガラス越しに実施している為、事業所来訪時に要望や意見を聞いている。生活状況や事業所内で撮った写真等を送付したり、月に1回家族へ電話連絡している。入居者からはゆっくりしている時や入浴時・夜勤時に話を聞いている。出された意見はサービスに活かしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のミーティングに法人代表が出席、ほか月に1回法人全体の会議に出席し、自由に意見を言える場を設けている</p>	<p>法人全体の管理者会議や事業所の毎月のミーティングには法人代表が参加して自由に意見を言い合っている。管理者は日頃から意見が言える環境作りを心がけている。年に1回個人面談を設けている。意見反映として配膳用折りたたみ台等の備品の購入を行った。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>就業年数や資格により手当がある、職員の生活スタイルに合った勤務時間も考慮、事業所内の不具合があった際には即対応できている</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時研修を実施、研修報告などで、本人の気づきなどを把握できるようにしている、事業内研修では、参加するだけでなく、それぞれが担当し発表できるようにしている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム協議会の連絡会メールで情報の共有をしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、幾度か本人及び家族と電話での連絡や面談の機会を設けるようにしている、医療面や介護面の情報も専門職より得るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや大変さを理解できるように聞く姿勢で対応し安心できるような声掛けを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報やアセスメントを行う中で、本人にとって何がよいのかを見極め、必要なサービスの提案ができるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを探し、職員と一緒に掃除や片付けを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>サービス計画書に家族の役割も位置付け、入居させることで申し訳なさを感じているご家族へも役割を持ってもらい、適度な距離感で家族の負担も軽くなり、大切に思っている本人が笑っている姿を見れたりすることで良い関係が保てるようにする、新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、面会制限中であるが、家族の写真や電話でのやり取りを行っている</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、面会は制限し外出は控えている、職員との会話の中で故郷や昔話を聞いたりしている、電話などの際には本人と話ができるようにしている</p>	<p>家族の来訪時に面談し利用者の特性や関係性など話し合っている。コロナ感染防止の為、玄関の2重ガラス越しに面会したり電話で利用者と話せる機会を設けたり、携帯電話での取次など関係が途切れない支援に努めている。家族の承諾を得てコロナ感染防止を行い整髪支援も心がけている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>無理強いではなく、昼間はできるだけホールで、入居者同士が話しやすい雰囲気になれるよう職員が仲介し良い雰囲気を作るようにしている</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>長期入院が必要となり退居となった際でも、入院機関との連携を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示が困難な方でも、本人の表情や言動、家族からの聞き取りなどで、少しでも思いに近づけるように努めている 夜の状態などもミーティング等で情報を共有している。	日常的に利用者がゆっくりしている時間帯に対話し思いや意向の把握に努めている。不機嫌な表情や動作等から家族とも相談し職員で話し合い本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問を行い、本人家族から情報を得る、介護保険サービス利用などがあれば、介護支援専門員からも情報を得る		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録の中の情報収集や申し送り、毎月のミーティングで情報を共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで入居者全員の情報が共有できるようにしている、目標見直しの際にはカンファレンスを実施している	本人や家族の要望を聞き、主治医の意見を基に職員で話し合い介護計画を作成している。更新時や変更時にカンファレンスを実施している。モニタリングは3ヶ月毎、6ヶ月～1年で見直し、状態変化時はその都度見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りを行い、個々にケース記録を記載、伝達事項は申し送りノートに記載し、職員間で共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診や必要な受診など、ご家族が対応困難時は事業所で対応している。本人の生活状況に合わせ、居室の模様替えなどを行い気分転換も図っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大により、事業所への立ち入りは制限しているが、訪問理容や訪問マッサージを受け、気持ちよさや満足を得られるようにしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を聞き取り希望に沿うようにしている、受診の際は、日ごりの様子などを書面にて主治医へ提供している、相談があれば在宅往診などの紹介も行っている	入所前からのかかりつけ医を大切にし、定期受診時は家族同伴で情報提供書を提出している。月2回の往診を受ける利用者や歯科の訪問診療もあり、適切な医療が受けられるよう支援している。24時間医療連携体制が整っている。他科受診は家族同伴が基本であるが職員が同伴することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤職員は全員が看護師であり、非常勤も看護師がおり、毎日のバイタルサインを含めた健康観察を行い、少しの変化でも介護職からの報告があり、適切に対応できるようにしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>出来る限り入院当日、入院先の病院へ連絡し、ホームでの生活状況などの情報提供を行い、入院中も適宜連絡を行い、状態を把握できるように努めている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重度化した場合の対応に関する指針について説明、同意を得ている</p>	<p>重度化した場合の対応に関する指針があり、終末期に対する考え方も明記している。入居時に説明し同意書もある。状態変化時、その都度家族に説明し方針を共有している。看護職員が多く、感染対策を徹底し家族の協力の基、看取り支援も行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを職員全員が周知し、対応など内部研修を実施している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回防火を含め地震や災害時などの訓練を実施、消防機器点検も定期的に行っている、緊急連絡網に沿って連絡体制を整え、必要時は地区の民生員や町内会長などの協力も頂けるようにしている</p>	<p>年2回災害時の訓練を実施している。消防署なしで自主訓練を行い、水害時は3階への避難。火災や地震時の通報訓練や関連施設の駐車場への避難誘導訓練を実施している。避難誘導経路は目に触れる場所に掲示している。定期的に消防設備点検も行っている。連絡体制も整備し町内会長や民生委員の協力も得られている。非常時として乾パン・水・缶詰・レトルト食品等、3日分備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇について事業所内研修を実施、日ごろは職員間でお互いの言動も注意している、その方の思いを尊重し、急がない待つ介護に心がけている</p>	<p>定期的に事業所内で人権擁護・接遇について研修を実施し、日頃から言葉遣い等を職員間で話し合っている。人格を尊重し待つ姿勢で支援している。排泄誘導時は耳元で声かけ、呼称は名前で呼び、入室時はノックしている。更衣時の洋服等は選択できるように動作や言葉かけをしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>一人ひとりに応じた声掛けを心掛け、今したいことを尊重、食事の好みも考慮している</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>それぞれの過ごし方を優先、ホールに来たくないときは、居室でゆっくりと過ごし、無理して参加するのではなく、参加したいレクに参加するようにしている</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>その人にもよるが、朝夕は寝間着から普段着へ更衣の声掛け、女性入居者より、「今日はどの服がいい」と相談を受け一緒に服を選んだりすることも多い</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時にアレルギーや好き嫌いなど嗜好を聞き取る、入居者と食事のメニューを決めたり、目でも楽しめるよう色合いも工夫、下膳やお膳拭き、テーブル拭きなどを一緒に行っている	昼食は母体医療機関の栄養士の献立で調理したものを提供し、その他はホームで入居者の希望に沿ったものを提供している。食形態も個人に依りて行い、代用食の提供もある。後片付けは職員と一緒にしている。行事食は手作りで、誕生日はちらし寿司などの希望食と手作りケーキを提供し食べるのが楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量をチェック、日・祝日以外は栄養士の献立で調理したものを提供、10時・15時・入浴後・夜間帯も水分が取れるようお茶などの飲み物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛け、自分で困難な方は口腔ケアの介助を行っている、必要時や希望がある際は訪問歯科診療を受け口腔ケアの指導を受けられるようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁の少ない方は昼間はできるだけ布パンツを使用していただき、適宜トイレの声掛けを行い失敗が少なくなるようにしている、介助なしで排泄ができない方でも、本人の能力を見極め手すりなどを使用することで、トイレで排泄ができるよう努めている	個人個人の排泄チェック表でパターンを把握しトイレ誘導している。夜間帯、ポータブルトイレ使用の人もいる。身体的にトイレ排泄が難しい利用者を2人介助で便排泄ができた。結果的にトイレまで歩行が可能となり、本人や家族・主治医に喜ばれた事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良いもの、野菜も多く摂れるように工夫している、水分補給と運動にも心掛け、それでも便秘傾向がある際には主治医へ相談している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を計画している、朝の一番風呂を望む方は望みを叶え、一人ひとりお湯の張替えを行い、ゆっくりと浴槽につかりたい方は、状態を観察しながら意向に沿うようにしている、冬場などは入浴剤などを使用し満足を得られるようにしている	基本的に週3回の入浴支援で、入る順番や湯温の好み・シャワー水圧等、個々の希望で対応している。浴槽の湯はその都度入れ替え、冬季は入浴剤やゆず湯・菖蒲湯など楽しめる入浴支援をしている。拒否時は無理強いせず、表情の変化等のタイミングで声かけしたり、職員を交代する等、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じ就寝できるようにしている、消灯になって眠れない方はホールで職員と一緒に過ごし対話などすることで安心できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師居宅療養管理指導を受け、服薬の指導や相談を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体を動かしたい方、居室で自分の好きなように過ごしたい方、ごみ集め・テーブル拭き・縫物が得意な方、様々であるが、それぞれ出来ることをして頂いている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス感染症拡大により、外出は自粛している	コロナ感染防止の為、外出や地域行事は自粛中である。日曜日や祝日に関連施設で運動機器で体を動かす等のレクリエーションを行っている。ベランダでの外気浴・洗濯場でおしゃべり・昔話で楽しみ、生活に変化があるように工夫した支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染症拡大により、買い物などの外出は自粛している、財布に少額を所持し安心していらっしゃる方に大切に使いましょう等の話をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持している方もいる、充電や電話がかかってきたときの応答の支援を行っている、手紙を書きたいという方に対し家族の住所を書く支援も行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わえるよう、ひな祭り・七夕・クリスマス・お正月など、入居者の方々と作成した作品をローカやホールに飾っている	共用空間には空気清浄機2台を設置し、1時間ごとに窓を開けて換気を実施している。利用者と職員との合作の季節行事作品を掲示したり、洗面台やテーブルには彼岸花を活けて生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ決まった席でお互いが馴染の顔となり、童謡を歌ったり会話が弾んでいる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が大事にしていた物や馴染にしていたもの、興味のある物などを、持参していただけるよう家族に依頼している、ベッドや家具もご本人の身体状況に応じ配置している	居室はベット・椅子・タンス・エアコンを設置している。寝具類・テーブル・テレビ・カセットデッキ・オルガン・写真・仏壇等を持ち込み、安全性を考慮した配置をして、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には本人、家族の了承を得て名前を書き、入居者が自分の居室と分かるようにしている、それでも困難な場合目印になるようなものを設置し混乱が少なくなるようにしている		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		4 ほとんどいない	

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない